

2018年6月25日発行

世界情勢ブリーフィング

<http://guccipost.co.jp/blog/jd/>

梅雨とは思えないほどの好天になることもあれば、やはり雨・・・ということで落ち着かないですね。沖縄は梅雨明けとのこと。行きたい・・・(笑)。

先週の動き

6/17 (日)

- ・メラニア・トランプ夫人が不法移民の親子の分断を批判
- ・コロンビア大統領選挙 (ドゥケが勝利)
- ・アフガニスタンでタリバンとの停戦中に自爆テロ (停戦は17日に終了)
- ・ギリシャとマケドニアが「北マケドニア共和国」への国名変更の合意に調印

6/18 (月)

- ・トランプ大統領が中国の報復措置への対抗措置として 2000 億ドル相当額の中国製品に10%の追加関税を課す案を作成するよう USTR に指示
- ・米上院が ZTE 制裁解除を阻止する修正条項を含めた国防授權法を可決
- ・トランプ大統領が「宇宙軍」の創設を国防総省に指示
- ・韓国国防省が8月に予定していた米韓合同軍事演習の中止を発表

6/19 (火)

- ・金正恩が訪中 (~20日)
- ・米国が国連人権理事会から離脱
- ・トランプ政権が中国の知的財産侵害の事例を例示した報告書を発表
- ・中間選挙の予備選 (アーカンソー決選、ワシントン DC)

6/20 (水)

- ・トランプ大統領が不法移民の親子を同一施設に収容できるよう求める大統領令に署名
- ・米商務省が鉄鋼の輸入制限で日本、中国、ドイツ、スウェーデン、ベルギーから輸入する一部の製品を適用除外にすると発表

- ・英議会が BREXIT 法案を可決
- ・IMF がアルゼンチンに対し 150 億ドルの融資の実行を決定

6/21 (木)

- ・インドが米国の鉄鋼・アルミ輸入制限への対抗措置として米国からの輸入品（大型バイク、アーモンド、リンゴ、クルミ等、2 億ドル相当額）に報復関税を課すと発表（8 月 4 日から発動）
- ・ユーロ圏財務相会合（ギリシャ財政危機の終息を宣言、金融支援は 8 月 20 日に終了）
- ・イスラエルの検察当局がネタニヤフ首相夫人を横領と背任の容疑で起訴
- ・米国の保守派知識人のチャールズ・クラウトハマーが死去

6/22 (金)

- ・EU が米国の鉄鋼・アルミ輸入制限への対抗措置として米国からの輸入品（鉄鋼製品、オートバイ、ウイスキー等、28 億ユーロ相当額）に報復関税を発動
- ・トランプ大統領が「EU が米国に課している関税や貿易障壁をすぐに取り除かなければ米国への輸入車すべてに 20%の関税をかける」とツイート
- ・トランプ大統領が北朝鮮の核兵器は米国にとって「異常で並外れた脅威」だと指摘し制裁を 1 年延長するとの文書を議会に送付
- ・米国防総省が今後 3 か月間に実施予定だった米韓海兵隊の合同演習「韓国海兵隊交換プログラム」2 回の中止を発表。
- ・韓ロ首脳会談（モスクワ）
- ・南北赤十字会談（金剛山）
- ・OPEC 総会、7 月からの小幅な増産で合意（ウィーン）

6/23 (土)

- ・OPEC と非加盟国との閣僚会合、日量 100 万バレルの増産の実施で暫定合意（ウィーン）
- ・イエメン情勢をめぐる有志国の閣僚級会合（ジッダ）
- ・金鍾泌・韓国元首相が死去

●トランプ政権の「貿易戦争」の拡大

トランプ大統領は、中国の報復措置への対抗措置として 2000 億ドル相当額の中国製品に追加関税を課す案を作成するよう USTR に指示。さらにこの関税に対して中国が報復措置を実施した場合、追加で 2000 億ドル相当額の中国製品にも課すことにも言及。

すでに発動を表明している 500 億ドルと合わせれば 2500 億ドル。さらに 2000 億ドルを上

乗せすれば 4500 億ドル。中国からの輸入額が 5000 億ドルなので、半分ないし大半をカバーすることになります。

なお、すでに 1000 億ドル相当額の製品の追加を検討していたはずですが、それは今回の 2000 億ドルでどこかにいってしまったようです（笑）。

・「米中の『貿易戦争』」（4/9）

<http://guccipost.co.jp/blog/jd/?p=5174>

また、2000 億ドルは思い付きの数字でしょうが、一つ留意すべきは米国から中国への輸出額が 1300 億ドルであること。これまで中国は米国と同じ金額分の製品に報復関税を課してきましたが、合計 2500 億ドルに関税をかけられることになれば、これに対応する金額に相当する報復はできなくなります。したがって別の手段を検討することが予想されます。

これについては、ぐっちーさんが（1）人民元の切り下げと（2）国債の売却という最も重要な手段を説明して下さっています。

・「動く！ アメリカ」（6/21）

<http://guccipost.co.jp/blog/gucci/?p=6512>

しかし、こうした動きを見ていると、どうも風向きが変わってきたというか、口先だけではない本気の「戦争」に踏み込んできたような気配を感じます。この点について解説します（※メルマガに限定）。

ここまでトランプが強硬な態度に出てきた背景には、これまで述べてきたとおり、グローバリスト（コーン）の退場、それに伴う強硬派（ライトハイザー、ナヴァロ、ロス）の影響力の拡大、米朝首脳会談を終えて中国に遠慮する必要がなくなったこと、そして支持率の上昇に伴いトランプが自信をつけていることがあるとみられます。

トランプの支持率については、以前の記事で、上昇傾向にあること、ラスムッセンの調査によれば 50%を超えたものの、この調査は信頼できないことなどを指摘していました。

・「トランプの支持率上昇」（4/2）

<http://guccipost.co.jp/blog/jd/?p=5151>

・「米国のイラン核合意離脱（2）：世界への影響と米国・民主主義の将来」（5/16）

<http://guccipost.co.jp/blog/jd/?p=5476>

しかし、先週に発表されたギャラップの調査によれば 42%まで上昇しており、過去 1 年で最高の水準に達したとのこと。米朝首脳会談が効いているのでしょう。この支持率上昇に水を差す可能性があるのが不法移民の親子分断問題ですが、これは次の項で述べます。

これまでトランプは、不慣れな大統領の仕事に戸惑い、「大人たち」に囲まれて居心地が悪い様子だったのですが、就任 1 年半が経ち、いよいよ自分なりのスタイルを確立したようです。今は自分の思うがままに政策を動かせるのが楽しくて仕方ないのでしょう。

気になるのは、トランプの「貿易戦争」に対して議会がどのような評価をするかですが、共和党の指導部や有力議員は自由貿易を信奉しており、批判的です。しかし共和党の「トランプ化」によって指導部は影響力を失っています。このためトランプへの牽制が働きません。

・「中間選挙の予備選」(6/18)

<http://guccipost.co.jp/blog/jd/?p=5675>

そして民主党のチャック・シューマー上院院内総務はトランプの政策に支持を表明しています。こうした動きがまたトランプの背中を押すこととなります。

一方、ここで注意すべきは、議会の「対中強硬派」とトランプ政権の「対中強硬派」にはその問題意識にズレがあることです。

議会が問題視するのは、中国企業の技術窃盗といった不正慣行や中国からの投資が米国の安全保障を脅かすことです。つまりアンフェアなやり方であって、貿易赤字は結果に過ぎません。言い換えれば「貿易戦争」よりも「ハイテク戦争」を重視しています。これに対しトランプは貿易赤字という結果そのものにこだわっています。このズレは米国の政策のズレを生み、よりちぐはぐで予測困難なものにしています。

ZTE 制裁解除をめぐるドタバタはその一端です。本気でハイテク戦争に挑むなら ZTE 制裁解除など考えられないはずですが。ZTE 制裁解除は、クアルコムによるオランダの NXP セミコンダクターズ買収を中国の規制当局が承認することと引き換えに取引されたと推測されています。こうしたズレは今後の政権と議会の関係、そして政権の政策にも影響を与えると予想されます。

なお、中国企業の不正慣行には、ハッカーによる機密情報の違法な入手のみならず、中国

人留学生や社員による産業スパイも含まれます。この問題に対応するためにトランプ政権は中国人へのハイテク分野のビザ発給の規制を検討しています。これは米国のコアともいえる平等の精神に反するおそれがあり、非常にセンシティブで、これから注視すべき動きです。

いずれにしても、喫緊の問題は、トランプ政権が本格的な「貿易戦争」に踏み込んでくる懸念が高まっていることです。こうなると不安になるのが 5 月に検討していると表明した自動車関税です。

・「自動車への制裁関税」(5/28)

<http://guccipost.co.jp/blog/jd/?p=5579>

これを実行すると主要輸出国であるメキシコ、カナダ、日本、EU、韓国はもちろん、米国自身も大きく傷つくこととなります。その影響はこれまでの措置と比べてはるかに甚大です。NAFTA は本当に崩壊するかもしれません。

上記記事で述べたとおり、私はこの関税を導入する可能性は極めて低いと思っています。なぜならトランプの支持基盤がある中西部の自動車産業は輸入部品に頼っているからです。これらの企業は関税導入を回避すべく猛烈なロビイングを行うはずですが、トランプはマクロ経済には理解も関心もないでしょうが、マーケットと票田には大きな関心を払っています。したがってこうした動きを無視することは考えにくいです。

トランプの狙いは、輸入関税を交渉材料にして、日本をはじめとする外国企業にさらなる生産拠点の移転を求めることでしょう。そこで何らかの落としどころを見つけるつもりだと思います。

ただ、最近のトランプの勢いを見ていると、ひょっとしたら・・・という懸念はぬぐえませんが、22 日には EU の報復関税に対抗して再び自動車関税をかけるとツイッターで宣言しました。鉄鋼・アルミのように一部品目を除外する形で実施する可能性もあるでしょう。

最後に、日本からの輸入品の一部を除外した決定が大きく報道されましたが、実際に除外が認められた部分のごくわずかでした。申請件数の 0.5%程度に過ぎず、むしろ却下件数の多さが目を引きます。審査体制も整っておらず、商務省内でも混乱がみられるようです。個別企業には朗報かもしれませんが、マクロ的に見ればほとんど意味がなく、それどころか今後、米国企業の利益を考慮して恣意的に運用される懸念すら感じさせる動きです。

●米国の移民政策

先週の記事（メルマガ限定部分）で言及しましたが、米国内では不法移民の親子分断をめぐる問題が毎日のように大きなニュースになっています。

・「中間選挙の予備選」（6/18）

<http://guccipost.co.jp/blog/jd/?p=5675>

この問題をめぐる状況を解説します（※メルマガに限定）。

まず世論調査によれば、米国民の**66%**が親子分断に反対しているが、共和党支持者の**55%**は支持とのこと。壁建設と同様、トランプのコア支持者には支持されるが、全体としては支持されない・・・という状況が読み取れます（壁建設については国民の**58%**が反対、共和党支持者の**77%**が支持）。また、メラニア夫人も、めずらしく事態を憂慮する発言をしています。

トランプも、この問題については、親子分断は痛ましいとしつつ、「オバマ政権と民主党が作った制度だ」として「自分の責任ではない」という論法で突破を図りました。

ところが、先週、トランプは態度を一変、親子が同一施設に収容されるよう求める大統領に署名し、軌道修正を図りました。「議会の責任だ」といいながら大統領の権限で解決できることを自ら示したわけです。

トランプの方針転換の背景には、イヴァンカの説得があったなどと報じられていますが、宗教界から強い批判が寄せられたことが大きかったと考えられます。カトリック、プロテスタント諸派らに加え、トランプの強力な支持層であるエヴァンジェリカル（福音派）も反発していました。共和黨員の支持を得られるとしても、ここは一步退いた方が良く・・・と考えたのでしょう。

この一件は、不法移民は犯罪者なのだから、法の執行という観点から強制措置は取らざるを得ないという議論にも正当性があり、また親子を一緒に収容させることも実務的に大変、という点で複雑な問題をはらんでいます。移民受け入れは支持するが、不法移民は問題であり、法の執行は重要だ・・・という人たちは、単純な移民排斥論者ではないのですが、道義的な理由から親子は一緒にすべきだ、というある意味感情的な議論にも与しないわけです。これはオバマ前政権から続く根深い問題であり、これからも議論は続くでしょう。

移民政策については、トランプはこれを中間選挙に向けた最も重要な争点にすると明言しています。親子分断については妥協するが、強硬姿勢は支持されているという基本的な構造は変わらない・・・という自信をもっているのでしょう。

一方、世論調査をみると、米国全体では移民を必要としていると考える人の数が実は増えています。米国民の多くは移民に対してよりオープンであるべきと考えているわけです。好調が続く米国経済にとって大きなボトルネックになるのが労働力不足である・・・という事情もあります。

トランプの強硬姿勢がアピールできるのは一部の選挙民という可能性は十分にあります。中間選挙はこの点について一つの答えを出すことになるでしょう。

ちなみに、もしかしたらトランプはジェフ・セッションズ司法長官に責任を押し付け、同長官を解任することで軌道修正をはかるのでは・・・という観測もありました。セッションズを飛ばせば、モラー特別検察官の解任も可能になるので一石二鳥というわけです。トランプがセッションズ解任を画策していたことは、だいぶ前になりますが以下の記事で述べていました。

・「ロシアゲートとトランプ弾劾の行方」(17/8/8)

<http://guccipost.co.jp/blog/jd/?p=4180>

トランプが軌道修正したことでこの可能性は消えたようです。ただ、今後も問題が続くようなら、トランプならばやりかねない・・・とも思えます。

●中朝首脳会談と米韓合同軍事演習の中止

金正恩の3度目の訪中。2度にわたる南北首脳会談といい、ずいぶん金正恩のフットワークも軽くなりました(笑)。それだけ国外に出ても体制は盤石で、外国首脳と会っても渡り合える・・・という自信を深めたのでしょう。

また、習近平もよくもこれだけ金正恩に時間を割くものだと感心します。よほど北朝鮮をつなぎ留める必要があると感じているのでしょう。

米韓合同軍事演習はトランプが記者会見で述べたとおり中止が決定されました。ただ、今回中止された「ウルチ・フリーダムガーディアン」は図上演習が中心で、実際の部隊は動員しません。これに対し、毎年春に実施される「フォール・イーグル」はリアルに部隊を

動員する大規模な演習。今年は平昌五輪の開催後の 4 月に延期し、期間と規模を縮小して実施されました。

・「平昌五輪と北朝鮮」(2/8)

<http://guccipost.co.jp/blog/jd/?p=4924>

・「今週の動き (4/9~15)」(4/9)

<http://guccipost.co.jp/blog/jd/?p=5174>

フォール・イーグル (と一緒に実施する図上演習の「キー・リゾルブ」) はウルチ・フリーダムガーディアンよりも北朝鮮にかける圧力がはるかに大きく、重要な演習です。これも来年中止するかは今の時点では何も言われていません。

一方、もしかしたら北朝鮮は、これから米韓合同軍事演習と在韓米軍を問題にしなくなるのではないか・・・むしろ利用価値を見出しているのでは・・・という見方も一部には出てきています。その意味を説明します (※メルマガに限定)。

こうした見方の背景にあるのは中国との関係です。米国と渡り合えるようになった北朝鮮は、中国との間でも外交の主導権を握りつつあります。中国を牽制する上で大きな力を発揮するのは、実は朝鮮半島に米軍がいることです。この地域から米軍を追い出すことを最も願っているのは中国だからです。

米国から体制の保証のお墨付きを得ることができれば、朝鮮半島に米軍がいることは北朝鮮にとってむしろ安心材料になります。人質のような意味をもってくるからです。朝鮮半島の統一まで視野に入れればなおさらです。米軍がいなければ統一朝鮮は中国の圧倒的な軍事力にさらされるからです。

こうした見方にどこまでの合理性があるかはまだ分かりません。しかし、米朝首脳会談を経て、色々な意味で北朝鮮をめぐるゲームのルールは変わってきたのかもしれない。

●コロンビア大統領選挙 (決選投票)

予想どおり右派のイヴァン・ドゥケが圧勝。まだ 41 歳。

左翼ゲリラの FARC (コロンビア革命軍) との和平合意の見直しを唱えているのは不安材料です。上院議員を 4 年務めただけで政治経験は乏しく、右派の大物であるアルバロ・ウリベ元大統領の傀儡との見方もあります。しかし、それだけに政治基盤は強く、自由主義

型の改革を公約にしており、国民からは高い期待が寄せられています。

ワールドカップでは日本に負けたコロンビアですが、経済の調子も上向きで、明るい兆しが見えつつあるようです。

●チャールズ・クラウトハマーの死去

米国を代表する保守派知識人のチャールズ・クラウトハマーが死去。68歳。

私はワシントン DC にいた頃からワシントンポストに掲載されるクラウトハマーのコラムを熱心に読むようになりました。当時はジョージ・W・ブッシュ政権の時代で、クラウトハマーは政権入りはしていませんが、イラク戦争の正当化の論陣を張り、ユダヤ人だったことから、ネオコンの代表格とも言われました。

こう書くと過激主義者のように思われるかもしれませんが、その言論は理性とエレガンスに満ちていて、深い哲学的思索を感じさせるものでした。これこそが本物の保守派知識人なのだな・・・と魅了されたものです。

現在のワシントンポストのコラムニスト陣。あまり当時から変わっていません。まだクラウトハマーの姿もあります。

https://www.washingtonpost.com/syndication/columnists/?noredirect=on&utm_term=.15ff184fc0c6

「コラムニスト」は日本ではあまりなじみがないかもしれませんが、米国では言論人の中で実績と評価を積み重ねた人たちのある意味尊称であり、大変権威があります。ワシントンポストのコラムニストたちは現代米国の知性を代表する人々と言って良いでしょう。

クラウトハマーやジョージ・ウィル、フレッド・ハイアットといった論客の洗練された議論は非常に魅力的で、私自身、大いに勉強になりました。しかし、こうした格調高い「保守」の人たちを日本で見ることはほとんどありません。さびしいことです。

金鍾泌・韓国元首相の訃報もありました。軍事政権から民主化以降まで韓国政治において大きな役割を果たした巨人であり、日本との関わりも極めて深かった人物。こちらも感慨深いものがありますが、とりあえずこのへんで切り上げます。ご冥福をお祈りします。

今週の動き

6/24 (日)

- ・トルコ大統領選挙・議会選挙
- ・サウジアラビアで女性の運転が解禁

6/25 (月)

- ・ボルトン大統領補佐官が英国、イタリア、ロシアを訪問 (～27日)
- ・AIIB 年次総会 (ムンバイ、～26日)

6/26 (火)

- ・中間選挙の予備選 (コロラド、グアム、メリーランド、ミシシッピ一決選、NY、オクラホマ、サウスカロライナ決選、ユタ)

6/27 (水)

- ・インドネシア統一地方選挙

6/28 (木)

- ・マティス国防長官が訪韓
- ・EU 首脳会議 (ブリュッセル、～29日)

6/29 (金)

- ・トランプ政権が通商法 301 条に基づく中国の対米投資規制の原案を発表

7/1 (日)

- ・メキシコ大統領選挙
- ・アフリカ連合 (AU) 総会 (ヌアクショット、～2日)

●トルコ大統領選挙・議会選挙

ポイントは先週の記事で解説したとおりです。

- ・「トルコ大統領選挙・議会選挙」(6/18)

<http://guccipost.co.jp/blog/jd/?p=5675>

その後色々アップデートはありますが、大まかな構図は変わっていません。結果が判明したところで詳しく解説します。

●ボルトン大統領補佐官のロシア訪問

米ロ首脳会談に向けた打ち合わせのようです。あの超強硬派のボルトン大統領補佐官が・・・と思いますが、これも結果を見てから解説します。

●メキシコ大統領選挙

新興左派政党である国家再生運動（Morena）から立候補したアンドレス・マヌエル・ロペスオブラドール（通称 AMLO）元メキシコシティ市長が支持率 50%と独走態勢。決選投票はないので、ロペスオブラドールが多数票をとればそのまま政権交代が実現します。

ロペスオブラドールは反トランプのナショナリズムによって一気に支持を拡大しました。政権交代が実現すればその生みの親はトランプだったと言っても過言ではありません。政権が変わればメキシコの政治と外交は大きく変化するでしょう。選挙後に解説します。

●EU 首脳会議と BREXIT

先週、英議会は政府が提出した BREXIT 法案を可決。ようやく国内の準備を整えて EU 首脳会議に臨む・・・ところですが、EU 側は「英国は合意なく勝手に離脱する可能性がある」と加盟国に警告。相変わらず前途多難な見通しです。

メイ首相の立場は相変わらず弱く、辞任や解散総選挙の噂がたえないようです。離脱プロセスには遅れが生じており、来年 3 月 29 日に EU 離脱（2020 年 12 月 31 日に移行期間終了）というスケジュールは難しいのではないか・・・という見通しが強まりつつあります。

あとがき

ワールドカップ、デンマーク対オーストラリア戦を見たら、デンマークの GK の名前がシュマイケル。あれ、シュマイケルってまだ現役なのか？相当な高齢だろうけど、GK だからできるのだろうか、それにしても・・・と思ったら、なんと息子でした。

私が知っていたシュマイケルはピーター・シュマイケル。90年代から00年代にかけて「世界最高の GK」と言われた選手です。92年の欧州選手権におけるデンマーク優勝では MVP 級の活躍をみせました（ちなみにこのときのデンマークは内戦のため出場資格を失った旧ユーゴの代わりに出場した）。このときのプレーは個人的にも強い印象が残っています。デンマークの国民的英雄と言ってよいでしょう。

今の代表のシュマイケルはカスパー・シュマイケル。ピーターの息子です。これもまた GK で、しかも世界最高レベルと言われているそうです。たしかにオーストラリアのプレーも無双でした。

クラウドハマーと金鍾泌の訃報に接しても感じたことですが、時代は変わりますね。

さて日本代表はこれからセネガル戦。間もなくキックオフです。楽しみです。

【発行】 The Gucci Post

(Copyright 2018 グッチーポスト株式会社)

【世界情勢ブリーフィング HP】 <http://guccipost.co.jp/blog/jd/>

【バックナンバー】 <http://guccipost.co.jp/blog/guccipost/?p=395>

【グッチーポスト HP】 <http://guccipost.co.jp/blog/>

【編集部 Facebook】 <https://www.facebook.com/GucciPost/>

【編集部 twitter】 https://twitter.com/gucci_post

【お問い合わせ】 inquire@guccipost.co.jp

【内容についての質問・コメント】 jd.world.briefing@gmail.com